

## 20価肺炎球菌ワクチン予防接種を受ける前に・一般注意

市川町保健福祉センター

### 《20 価肺炎球菌ワクチンについて》

肺炎は日本の死亡原因の第5位であり、成人の肺炎の約2～3割は、肺炎球菌という細菌により引き起こされるとの報告があります。

肺炎球菌には、100種類以上の型があり、定期接種で使用される20価肺炎球菌ワクチンは、そのうち20種類に対して免疫をつけることができると言われています。すべての肺炎を予防できるわけではありませんが、肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し、重症化を防ぎます。

### 《予防接種を受けることが適当でない人》

- ① 発熱している人
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人
- ③ ジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー(アレルギー反応)を起こしたことがある方
- ④ そのほか、医師が不適當だと判断された方

### 《予防接種を受ける前に、医師と相談する人》

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 以前に予防接種を受けた後、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを思わせる異常がみられた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 今までに、免疫不全と診断されたことがある人、及び近親者が選定性免疫不全の人
- ⑤ ジフテリアトキソイドに対してアレルギーを起こすおそれのある人
- ⑥ 血小板減少症や、凝固障害のある人
- ⑦ 抗凝固療法を受けている人

### 《予防接種を受けた後の一般的注意事項》

- ① 接種後に軽微な発熱、注射部位の腫脹、疼痛がある場合がありますが、1～2日で消失します。
- ② 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすはやめましょう。
- ③ 接種当日は、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

### 《副反応について》

接種後に軽微な発熱・注射部位の腫脹・疼痛などがみられることがありますが、通常1～2日のうちに消失します。ほかに、発赤、頭痛、腋窩痛(脇の下の痛み)、かゆみがあります。

注射部位の異常な反応や、体調の変化がある場合は医師に相談してください。

### 《予防接種による健康被害制度について》

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなど健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

ただし、予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと厚生労働大臣が認定した場合に限ります。